

令和3年度 指導の重点

1 小学校：体育 中学校：保健体育

◇本年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、運動の楽しさや喜びを味わえる授業の実践
- (3) 健康・安全について、小学校では、基礎的・基本的な内容を実践的に理解できるようにし、中学校では、科学的に理解できるようにする保健教育の実践

◇現状と課題

- ・運動の特性や魅力を十分に味わうことのできる授業実践
- ・発達の段階を踏まえた指導と評価の計画の作成
- ・運動領域（体育分野）と保健領域（保健分野）を関連させた指導の充実
- ・体育的活動時の事故防止

(2) 資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、運動の楽しさや喜びを味わえる授業の実践

- ・学校や地域の実態及び児童生徒の心身の発達の段階や特性、各学校種間の関連を十分考慮して、2学年間や小学校6年間、中学校3年間の見通しに立って、指導計画を作成し、日常的な活用及び見直しを図る。
 - ・指導内容が確実に身に付くような教材・教具や個に応じた指導方法を工夫する。
 - ・指導内容の定着を確実に評価する方法と、評価を次の指導に生かす方法を工夫し、指導と評価の一体化を図る。
 - ・体育と保健を一層関連させて指導する。
- (3) 健康・安全について、小学校では基礎的・基本的な内容を実践的に理解できるようにし、中学校では科学的に理解できるようにする保健教育の実践
- ・小学校では健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点、中学校では自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成する観点を踏まえ、系統性のある指導ができるように、指導内容を明確にする。
 - ・健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫改善に努める。

2 高等学校：保健体育

◇本年度の重点

- (1) ICTを効果的に活用した授業の実践
- (2) 新学習指導要領の趣旨及び生徒の実態に即した指導計画の作成・改善・活用
- (3) 健康・安全に関する内容を総合的に理解するとともにコロナ禍に伴う感染症をはじめとする保健教育の工夫

(2) 新学習指導要領の趣旨及び生徒の実態に即した指導計画と評価規準の作成・改善・活用

- ・小学校から高等学校までの12年間の一貫した教育課程における最終段階であることを念頭に置くこと。
 - ・生徒の実態に応じた資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するよう、具体的な年間指導計画と評価規準を作成し、活用及び見直しを図る。
 - ・共生の視点を踏まえ、男女共習を原則とする授業に向けて、更なる工夫改善を図る。
 - ・体育と保健を一層関連させて指導する。
- (3) 健康・安全に関する内容を総合的に理解するとともにコロナ禍に伴う感染症をはじめとする保健教育の工夫
- ・生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成するという観点から、小・中学校の内容を踏まえた系統性のある指導を行う。
 - ・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなど、指導方法の工夫を積極的に行う。
 - ・新型コロナウイルス感染症をはじめとする、感染症の予防や対策を十分理解し、生活環境への適切な実践と柔軟に対応できる力を育成する。

※〔(1) ICTを効果的に活用した授業の実践〕は、各教科・領域共通のため、県立総合教育センターホームページ「義務教育指導課 研修用資料サイト」に掲載の「指導の重点（総論）」を参照。